



2026年 6月22日

大阪市教育局
教育長 多田 勝哉 様

夜間中学校の取り組みを支援する会
代表 田村 孝

夜間中学校の教育条件ならびに学ぶ権利の保障にかかわる要求書

義務教育は、基本的人権の大きな柱です。義務教育を十分に保障されないまま学齢を経過した住民が、政令市最多となっているのが大阪市です。また、外国人労働者の渡日が再開されて以降、大阪でも夜間中学校入学を希望する労働者やその家族が増えてきています。加えて、増加する不登校児童生徒やその経験者にとっても、文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について（通知）」に示されているように、夜間中学校は学び直しの場、将来の進学等に向けた希望の場となっています。

今年度、天満夜間には124人、東生野夜間には89人、心和夜間には64人の生徒が在籍しています。多くは外国籍であり、日本で進学して職に就き、暮らしていくことをめざしています。そのためには日常会話だけでなく、学習言語としての日本語を習得する必要があります。しかしながら、教室のキャパシティや日本語指導ができる教員数の問題で、新入生に十分な教育環境を提供できない状況が発生しています。日本語指導ができる教員の配置が喫緊の課題となっているとともに、年々増加している新入生を受け入れる場所が必要です。

「夜間中学校の取り組みを支援する会」は、夜間中学校に通うすべての方々が、安心して学習できるよう夜間中学校の教育条件の向上をめざし、2010年12月に発足しました。この間、大阪府や大阪市では、財政的な理由から夜間中学校に対する施策が縮小・廃止されています。様々な理由で「学ぶ権利」を奪われてきた方々が、行政の財政的理由によって再び「学ぶ権利」を奪われてはなりません。

夜間中学校の施設・設備の改善をはじめとする教育条件の向上と夜間中学校に通う方々が安心して学べるよう、以下のとおり要求します。

記

1. 国の第4期教育振興基本計画に示されている夜間中学の設置・充実について、大阪市教育局教育振興基本計画にも追記し、施策目標を設定されたい。
2. 大阪市立中学校夜間学級について以下のことを明らかにされたい。
 - ① 各中学校の日本語指導が必要な生徒数
 - ② 日本語指導担当教員を含めた各夜間中学校の教員定数、そのうち「特別的教育課程による日本語指導」における教員定数
 - ③ 各中学校の教員配置数

④ 各中学校の日本語指導ができる教員数

3. 大阪市立中学校夜間学級入学説明会・相談会について、学齢生徒の家庭や保護者に周知されたい。

4. 以下の生徒数について明らかにされたい。

① 大阪市外の中学校夜間学級に在籍している大阪市内在住の生徒数

② 大阪市内の中学校夜間学級に在籍している市外在住の生徒数

③ 2026年度4月入学生の大阪市内3校の受け入れ状況

5. 心和中学校の生徒が、心和中学校と心和中学校「天王寺教室」のどちらも選択できるようにされたい。

6. 入学希望者が増えてきていることから、「天王寺教室」の存続と活用も含め、学習者が通学しやすい場所に夜間中学校を設置されたい。

7. 学びの多様化学校と夜間学級を併設したことで、夜間学級の生徒に対する教育効果について明らかにされたい。

8. すべての夜間中学生に給食もしくはそれに値する食事を提供されたい。

9. 中学校夜間学級の教育扶助費（学級費）の支給について、中学校既卒者と未卒者を区別している理由を明らかにされたい。また、厚生労働省が認めている通りに既卒者にも教育扶助費の支給を行われたい。

10. 在籍期間中の就学援助を保障されたい。また、申請時期の早期化と早期支給に努められたい。

11. 中学校夜間学級の教員が教育に専念できるよう、業務の整理を行われたい。

12. 在留資格「家族滞在」の者を含むすべての高等学校生がいわゆる「高等学校無償化」の制度を利用できるように、国や大阪府に働きかけられたい。

以上